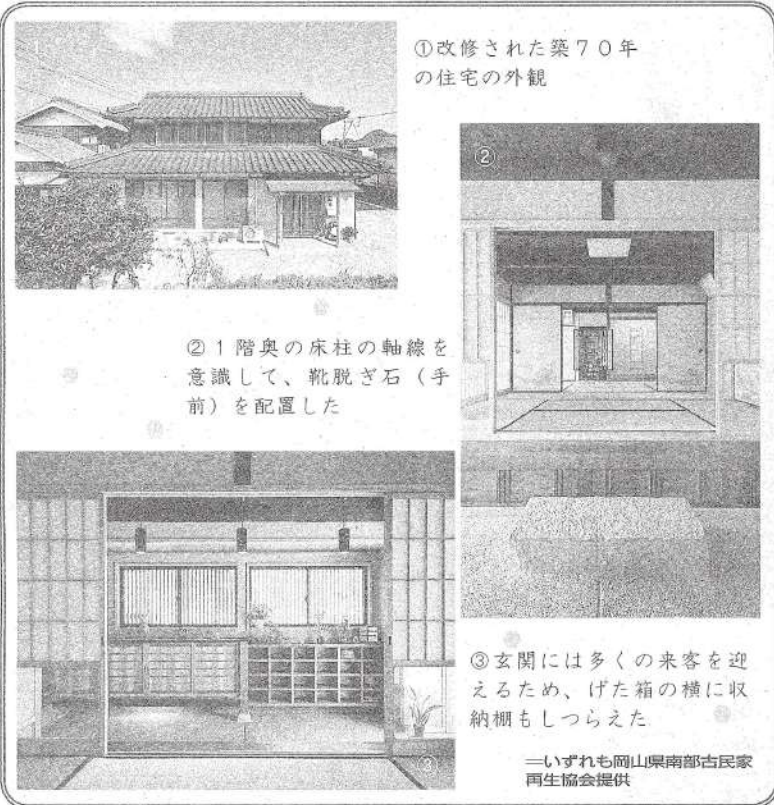


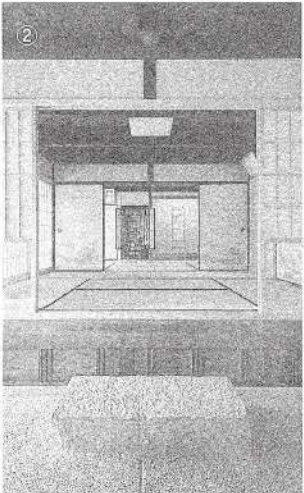
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

古民家リノベ今、ブーム



①改修された築70年の住宅の外観

②1階奥の床柱の軸線を意識して、靴脱ぎ石(手前)を配置した



③玄関には多くの来客を迎えるため、げた箱の横に収納棚もつらえた

—いずれも岡山県南部古民家再生協会提供

再生協会岡山支部 正田さんに聞く



「伝統の住文化を守りたい」と話す正田順也さん—本人提供

伝統と新しさ 調和が魅力

代。ただ、古民家を買ってから後悔する人も少なくない。立地や建物の状態など実際に住むための環境や条件などを事前にしっかりと確認する必要がある」と指摘する。

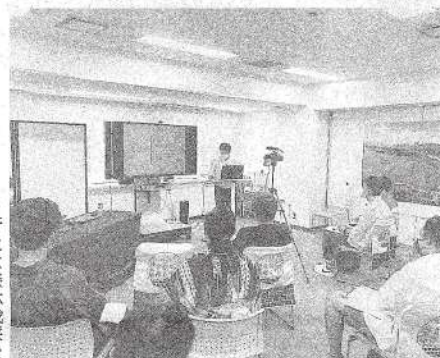
調査し、補修するなどして再生可能か解体した方がよいかの判断を提案する。簡易鑑定で再生可能と判断されたら総合調査を進め、耐震診断も含め約600項目をチェックする。

簡易鑑定は一般社団法人住まい教育推進協会(東京)が認定する木造住宅簡易鑑定士が行い、費用は3万円ほど。総合

援につなげようと、シルバー人材センターと連携

クする業者も多くなっているという。

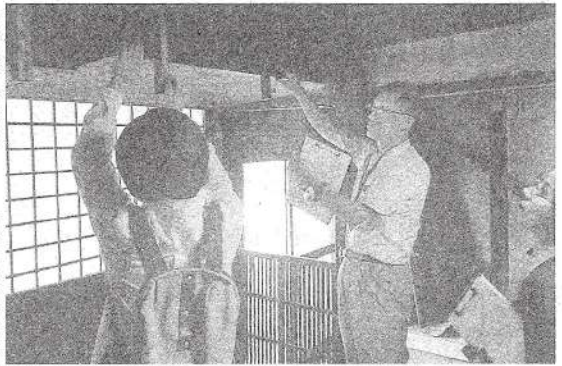
新たな森林伐採を減らし、廃材の発生を抑え二酸化炭素の排出抑制につながり温暖化防止に貢献するだけでなく、住文化の伝承や町おこしという側面もある。正田さんは倉敷市児島上の町の建設会社、今は建築工務社長を務める傍ら、同市下津井地区で17年から空き家をショップや移住者の住まいなどに活用する地域プロジェクトも展開



移住セミナーで地域の魅力や古民家選びの注意点を説明する正田さん(中央奥)

古民家は一般的には築50年以上の家屋を指すが、全国古民家再生協会は「1950年の建築基準法制定時に既に建てられていた伝統的建造物の住宅」と定義している。正田さんによると、岡山県内には、約5万戸の古民家があると推定される。古民家の柱などの部材にはヤキ、ヒノキ、桜など多種多様な樹木が使われている。良質な木材は数百年たっても強度が変わらず、長年の使用で味わいも増すという魅力がある。

正田さんは「若い世代で古民家に住みたがる人も多く、現在は空前の古民家ブームともいえる時



定や古民家再生総合調査という方法がある。簡易鑑定は建物の構造や木材の状態、古民家としての希少性など20項目ほどを調査し、古民家鑑定士がみずみまで調べ、費用は約30万円かかる。県南部古民家再生協会は高齢者の経費を生かした就労支

し簡易鑑定士の資格取得を推進。再生協会メンバーの建築士らが資格取得者に鑑定の現地指導もしている。

古民家の風情を残しながらモダンなデザインで住みやすくリフォームする一方で、建て替えあるいは解体される場合もある。正田さんによると、最近の傾向として移築や古材の活用が増えているという。循環型解体として、従来なら捨てられていた古い木材を再利用するため古材売買が公正に行えるよう国は法整備を進めている。味わいのある木材を適材適所で利用するため、古材倉庫でストック

森林保全に貢献

空き家対策も大きな課題だ。総務省が5年ごとにいう調査で、2018年の全国の空き家は古民家も含め約850万戸、全住戸に対する空き家率は約14%。正田さんは高齢化で空き家は今後も増加していく。改修の必要性などの調査も含め、早めに相談してほしい」と呼びかける。正田さんは自治体と連携し東京や大阪で移住セミナーに参加し、岡山の古民家の物件情報や古民家選びの注意点を話している。

古民家再生の普及は、岡山県南部古民家再生協会は電話0120-780000。